

# 持続可能な社会における廃棄物管理とはなにか

ティオ・ウェイ・チン

キーワード：持続可能な社会、廃棄物管理、  
サステナブルな発展

## 要旨

学術論文や政策関係者の間では「持続可能な廃棄物管理」という表現がしばしば用いられるが、理論的な解釈の共通性がまだ得られていないと見受けられる。

本論文は、中央政府の視点から、持続可能な社会における廃棄物管理のありかたを検討する。持続可能性、持続可能な発展、廃棄物管理、といった概念やそれらに関する理論的枠組みについて厳密に概観し、それを通じて、現在想定されている「持続可能な廃棄物管理」の枠組みやモデルは、経済的、環境的、社会的な観点から、廃棄物管理サブシステムを最適化するという「弱い持続可能性」アプローチであることを示す。このアプローチは有効ではあるが、長期的でより高度な持続可能性を達成するためには究極的に不十分である。

「弱い持続可能性」に代替する枠組みとして、「強い持続可能性」がある。「弱い持続可能性」の枠組みは、自然界の持つ機能や法則を経済的・社会的なシステムよりも重要なものとして位置づけ、物質化学や生態学の観点から廃棄物問題を捉える。また「強い持続可能性」の枠組みの下では、製品の廃棄段階だけではなく、原料の採取から、生産、消費、廃棄までといったライフサイクル全体を網羅する廃棄物管理のあり方が提唱されている。

本論文は、持続可能な廃棄物管理のため、「強い持続可能性」に基づいた新たな枠組みを提案する。また、現在廃棄物管理行政の現場で問題となっている事柄に関連し、持続可能な社会を実現に向けた廃棄物管理の政策や実務に対する政策提言を行っている。